

つなぐ そだてる みんなの劇場

1985年「西大寺子ども劇場」を設立、2001年には法人格を取得。
「NPO法人文化☆体験ネット西大寺子ども劇場」として、
岡山市東区・瀬戸内市をエリアに30年間、文化発信の拠点として活動をつづけています。

地域の中で優れた文化芸術の出会いと体験活動を推進し
子どもに対する支援などの事業を行い
子どもの豊かな成長に寄与することを目的とします (定款第3条)

観劇のお手続き

まずはご連絡ください
お申し込み・お問い合わせ
NPO法人文化☆体験ネット西大寺子ども劇場
TEL 086-942-1544 FAX 086-206-7750
E-mail ▶ info@npo.sakuraweb.com URL ▶ http://npo.sakuraweb.com/

いつでもだれでも入会できます

入会金 (初回のみ)	ひとり	200円
月会費	大人 子ども	ひとり 1,100円

OK! 1人 2400円(4才以上)
*4歳以上。3歳未満はおひざで観ます。会費はいりません。
また、託児も利用できます。1人200円(西大寺会場のみ)

会員になると

- ★ 年間をとらして、お芝居や人形劇、音楽、古典芸能などの舞台鑑賞会に参加できます。
- ★ 劇場は創造団体と連携しています。劇団やアーティストの方とのワークショップや交流会を企画。楽しい交流体験活動に参加できます。
- ★ 家庭や学校では経験できないさまざまな体験活動に参加できたり企画提案できたりします。
- ★ 会報や文化、子育て、教育に関する情報を広く受け取れます。
- ★ 子どももおとなも友だちの輪が広がります。先輩ママ会員さんが子育て相談もサポート。
- ★ 子ども劇場岡山県センターネットワーク団体が主催する鑑賞会に会員割引で参加できます。
※岡山市、玉野市・赤磐市・笠岡市・津山市・備前市にあります。

ご支援、ご協力ください！
賛助会員(年会費) ひとり 3,000円
◎財政的な支援により、文化☆体験ネット西大寺子ども劇場の活動を見守ってくださる方を募集しています。年に1回鑑賞会に参加していただけます。

NPO法人 文化☆体験ネット西大寺子ども劇場
TEL.086-942-1544 FAX.086-206-7750
〒704-8111 岡山市東区西大寺北946 10:00~17:00(土・日・祝日 休み)
E-mail info@npo.sakuraweb.com URL http://npo.sakuraweb.com/



西大寺子ども劇場
設立30周年記念版

2015年度 作品と活動のご案内

さあ、劇場へ行こう!

西大寺子ども劇場 検索
facebook



西大寺子ども劇場30周年に寄せて

カブトムシの丸い部屋
子どもの心と演劇の関係を考える時、カブトムシの丸い部屋をいつも思う。土中でサナギから成虫になるまでの時間を過ごす、体より一回り大きい卵のような丸い空間。活発に餌を食べる幼虫の時期が終わり、成虫になるまでの時間、彼らはその部屋で少しずつ熟していく。
子どもの時、幼虫を手に入れて黒い腐葉土の中で育てた。幼虫はずっと土の下にいるから、生きているのか死んでいるのかわからない。死んだんじゃないかと思って土を掘ったら、その空間とサナギに出会った。不思議な外皮が作る大人の外形、ほぼ動かないが生きている感じ、そして黒土の中に見事に作られたマユのような空間。カブトムシは、闇と静寂の中、卵型空間と外皮に守られて、地上の夏を夢見ている。
演劇が子どもの心に作るのは、あの卵型の暗闇のような空間ではないかと思っている。部屋はいくつかある。悲しみの部屋。恐怖の部屋。邪悪の部屋。別れの部屋などなど。
楽しいことは、みんないろいろに体験する。それは特に受け入れの準備がなくても、心が喜んでどんどん受け入れる。喜びがどかんと押し寄せても、心がつぶれてしまうことはない。でも、例えば悲しいこと、怖いことはどうだろう。どかんと一気にやられたら、心に大きなヒビが入ったり、形が変わったり、ひどかったらつぶれてしまうかも。受け入れるには準備がいる。
世界は優しさや楽しさだけではできていない。まがまがしいものもある。そこから目をそらしても始まらない。心がしっかりと根をはって大きく育てていくためには、やがて出会うそれらを、過大でもなく過小でもなく、正確に受け入れる準備が、まずは必要だ。異議も反撃も、それを正確に知ってからすればよい。
いろんな暗い感情を整理する部屋を、幼い心の中に少しずつ作っていこう。小さい穴から始めて、だんだん広げ、壁をしっかりと固め、すぐには崩れないようにする。みんな、大きくなるにつれていろんな体験をするだろう。見る、聞く、さわる、さわられる。すぐに整理できる経験もあれば、どう受け止めていいかわからないこともある。でもいろんな部屋があれば大丈夫。時間をかけて、そこに整理すればいい。

少し前までは、自然や、身近な病気や死、濃密な地域や親戚の付き合いが、そういう準備をしてくれた。今はどうか。統制され無菌化された白っぽい日常の中で、メディアや、時には知らない隣人が、奇怪な世界の暗部を子ども達に唐突に突きつける。準備がなければ、心に刺しこまれた何かが、回復の難しい傷を負わせるかもしれない。身近な人の愛情が、子どもの心を守るのには間違いない。が、いい演劇を見ることも、備えの一つ。架空の世界が、日常にないさまざまな体験を全身に与えるからだ。

ちょっと重たい話になった。もちろん劇場には喜びがあふれている。笑い声や、時には俳優への掛け声やツッコミや。客席と同じ空気が流れる場所に不思議な物語空間があって、それはとても近くて手をふれることだってできるのだが、同時に息をのむほど特別で、さわることのできないこしらえ物のようにも感じられる。観るのは「私たち」。テレビの前に座るのは、一億分の一の顔のない「誰か」だが、舞台の前の「私たち」は、芝居を楽しみながら、同時に客席の互いの笑い声や息づかいを楽しんでもいる。

劇場の空間は、人間や人間集団への信頼を分かち合える温かい場所でありたいと思っている。子供と一緒に作る場は、とりわけそうでなければならぬ。それからもう一つ大事にしたいのが、カブトムシの丸い暗い部屋。

いい演劇には、いい闇がある。舞台をじっと見つめる子ども。怖かったり、悲しかったり、不安だったり。でも目を離せない。その目の深い深い奥に、いろんなものを整理してしまいこむ暗い丸い部屋が、ふくふくと、しっかりと育っていく。

西大寺子ども劇場の30周年をお祝い申し上げます。
長い継続と蓄積に尊敬と希望を感じます。

鳥の劇場芸術監督/演出家 中島 諒人

鳥の劇場

鳥の劇場は、鳥取県鳥取市鹿野町の廃校になった小学校と幼稚園を劇場に変えて、2006年から演劇活動をはじめました。演劇作品の上演だけでなく、教育現場でのワークショップや障がいのある人との小さな芝居づくりにも取り組んでいます。また、毎年秋には国際演劇祭・鳥の演劇祭を開催しています。



30周年記念 特別公演
鳥の劇場
「すてきな三にんぐみ」
2016年3月13日(日)
百花プラザ多目的ホール